

忘れない フクシマ まもりたい いのちとびわ湖
美浜・高浜の老朽原発は、ただちに廃炉にせよ
原発マネー不正環流で腐敗した関電は、原発から撤退せよ

原発のない社会へ

2022びわこ集会

日時 2022年3月5日（土）

10時30分 イベント（大津市生涯学習センターで開催）

◎避難計画調査報告展示とDVD上映（2階201学習室）

◎福田章典さんに聞く安定ヨウ素剤の使用法（3階301.302学習室）

◎青田恵子さん布絵展（3階303学習室）

◎畑明郎さん講演会「イタイイタイ病とフクシマ」（4階視聴覚室）

13時 トーク 神田香織さん（膳所公園）

14時 集会（膳所公園）

呼びかけ人代表あいさつ 黙とう

連帯あいさつ

嘉田由紀子さん（参議院議員）

平尾道雄さん（米原市長）

メッセージ紹介（リーフに掲載しています）

基調報告 井戸謙一さん（弁護士）

県内避難者の訴え 佐藤勝十志さん

集会アピール(案)採択

閉会あいさつ



15時10分頃 パレード・デモ出発

【原発のない社会へ 2022びわこ集会呼びかけ人】（順不同）

峯本 敦子（さいなら原発・びわこネットワーク） 畑 明郎（福井原発訴訟を支える会）

福田 章典（福井原発訴訟を支える会） 野坂 昭生（さいなら原発・びわこネットワーク）

井野 文（ネットワークあすのわ・避難計画を考える滋賀の会）

原発のない社会へ 2022 びわこ集会タイムスケジュール

【生涯学習センター】

【膳所公園野外ステージ】

<p>いずれも 10時30分 より開始 12時30分 終了</p>	<p>プレ企画</p> <p>原発事故の県内自治体の 避難計画に関する調査結果の展示と 地震解説ビデオ上映 生涯学習センター201 学習室</p> <p>福田章典さんに聞く 安定ヨウ素剤の使用法 生涯学習センター301・302学習室</p> <p>青田恵子さん布絵展 生涯学習センター303学習室</p> <p>畑明郎さん講演会 「イタイタイ病とフクシマ」 生涯学習センター4階視聴覚室</p>
---	--

<p>13時</p>	<p>トーク 神田香織さん</p>
<p>14時</p>	<p>びわこ集会 野外ステージ</p> <p>開会 呼びかけ人代表あいさつ 黙とう 連帯あいさつ 嘉田由紀子参議院議員</p> <p>平尾道雄さん(米原市長)</p> <p>メッセージ紹介(リーフに掲載) 滋賀県知事、大津市長、日野町長 福井集会、京都集会、滋賀県保険医 協会、日本基督教団滋賀地区 基調報告 井戸謙一さん(弁護士) 県内避難者の訴え 集会アピール(案)採択 みんなでプラカードアピール パレード・デモ諸注意</p>
<p>14時50分</p>	<p>閉会</p>
<p>15時10分</p>	<p>パレード・デモ出発 膳所公園 ~ Oh!Me 大津テラス前 流れ解散</p>

【コロナ感染防止対策へご協力を】

- ・手指消毒、体温測定、支障のない限りマスク着用などにご協力下さい。
※マスクは実行委員会で用意しています。
- ・発熱など体調のすぐれない方は、参加をご遠慮ください。
- ・三密にならないよう、各自ご注意ください。
- ・その他、実行委員会の呼びかけにご協力ください。

【生涯学習センターでのお願い】

- ・各会場ご自由に参加できますが、びわこ集会の参加協力券の購入にご協力ください。
- ・各会場内は飲食禁止です。

【公園内会場について】

- ・参加協力券の購入・精算等はステージ付近の本部受付にてお願いします。

【パレード・デモについて】

- ・車道や歩道などを行進します。要所に実行委員会の係員(警察ではありません)を配置していますので、指示に従ってください。



2022びわこ集会 主催者あいさつ

呼びかけ人・畑 明郎

みなさん、こんにちは。びわこ集会呼びかけ人の畑です。本日は、コロナ禍の中多数お集りいただき、ありがとうございます。まず、東日本大震災と福島原発事故の犠牲者に1分間の黙とうを捧げたいと思います。

黙とう…【1分間】…ありがとうございました。

福島原発事故から11年経ちましたが、事故は収束せず、廃炉の見通しも全く立っていません。汚染水は溜まる一方で、130万トン近くに達し、地元の反対よそに汚染水の海洋放出準備を進めています。今も6万人を超える避難者は、経済的・心身ともに追い詰められています。事故の収束作業に従事する数千人の労働者は、コロナ禍の中で、被ばく労働を強いられています。福島では、甲状腺がんと判定された300人近くの子どもたちや健康異常を訴える人々は増え続けていますが、国や県は事故との因果関係を否定するので、今年1月にがん発症者6人が東電に損害賠償を求めて提訴しました。

政府は、福島の帰還困難区域を解除し、汚染地への帰還を強要し、自主避難者への支援を打ち切りました。大多数の国民の反対を押し切って、川内・玄海・伊方・高浜・大飯原発の再稼働が強行されましたが、原発差し止め訴訟により高浜や伊方原発の再稼働を一時止めました。2020年に大阪地裁は、関電の大飯原発3・4号機の設置変更許可取り消しを命じる判決を出し、関電の原発マネー不正還流や、テロ対策遅れやトラブルによる稼働停止が相次いでいるのに、昨年、美浜や高浜の老朽原発を再稼働させました。

滋賀県の一部は、福井の原発から30キロ圏内にあり、重大事故が起これば、避難はほとんど不可能です。また、びわ湖の湖水や湖底に放射性物質が溜まり、長期にわたって近畿圏1500万人の貴重な水源が失われ、土壌も広範に汚染されるため、西日本も安心して住めなくなります。びわこ集会に集う私たちは、福島原発事故を忘れることなく、原発のない社会をつくりあげる決意を新たにしています。これからもがんばりましょう。

「原発のない社会へ 2022びわこ集会」 連帯メッセージ

「3・11メモリアルアクション 原発のない新しい福井へ」 第11回さよなら原発福井県集会2022 in ふくい」 実行委員会

びわ湖集会様

電力供給地元の福井県の住民は、毎年3月に「さよなら原発福井県集会」を開催してきました。今年は、3月5日（土）に福井市フェニックスホールで第11回集会を開催します。「集会」は、午後1時に開会し、3時から30分間の市民行進をもって終了します。

今回も開催目的として「フクシマを繰り返すな！」「福島原発汚染処理水の海洋放出を許すな！」「岸田政権は即時原発ゼロの決断を！」「住民の安全第一に避難防災対策を！」「関電原発マネー還流の徹底調査・真相究明を！」などを掲げております。

大島堅一教授（福井県出身、龍谷大学政策学部・経済学博士）による「原発から再生可能エネルギーへ エネルギーのグリーン改革に向けて」と題した基調講演があります。他に、低線量被ばく・内部被ばくの危険性と原発安全神話の崩壊をアピールし、福島からのビデオメッセージや文化企画・歌声発表を行います。

「びわ湖集会」にご参加のみなさまと連帯して、原発のない社会をつくるための住民運動を拡げ深める決意をお伝えし、連帯のご挨拶とします。 2022年3月5日

「バイバイ原発3・12きょうと」 実行委員会

「原発のない社会へ 2021 びわこ集会」にご参加の皆さんへ

「バイバイ原発3・12きょうと」から連帯のご挨拶をいたします

今年2022年3月で東日本大震災・福島原発事故から11年を迎えますが、いまだ原子力緊急事態宣言は解除されず、いまなお福島県民をはじめ多くの方々が避難を余儀なくされています。さらに福島の漁業者の血のにじむような努力を無視して、放射能汚染水の海洋放出が強行されようとしています。

関西電力は、昨年6月、多くの反対の声を押し切って40年超の老朽原発美浜3号炉の再稼働を強行しました。しかしながらテロ対策施設設置の遅れから10月には運転を停止しています。

そもそも原発の運転期間を40年とするルールは、甚大な被害をもたらしている福島原発事故を踏まえ、圧力容器が核分裂で発生する中性子を浴びることでもろくなる目安として決められました。そしてさらに地震活動が活発化している現状を考えると、老朽化した原子炉が強い揺れに耐えられるのかという重大な問題があります。実際、美浜3号機は活断層の巣の中にあると指摘されています。

私たちは、若狭から日本からそして世界から原発を無くそうとの声を京都から発信しようと、2012年から毎年3月、京都・円山音楽堂にて「バイバイ原発きょうと」を開き、京都市役所までデモ行進をおこなってきました。

今年の集会では以下の決議をいたします。

- 一、 福島原発事故によって奪われた暮らし・健康・環境・地域社会を国と東京電力に償わせよう。
- 一、 政府・東京電力に福島原発放射能汚染水の海洋放出をやめさせよう。
- 一、 東京電力刑事裁判、東京高裁で勝利し、福島原発事故の刑事責任を東電旧経営陣にとらせよう。
- 一、 地震列島・日本、高浜原発などの老朽原発をはじめ、すべての原発の再稼働をやめさせよう。
- 一、 原発推進は直面する気候危機打開に百害あって一利なし。省エネと再生可能エネルギーで気候危機を打開しよう。
- 一、 脱原発社会を一日も早く実現しよう。

2022年3月5日

原発のない社会へ 2022 びわこ集会に寄せて

日本キリスト教団滋賀地区伝道協議会議長 深見祥弘

日本キリスト教団滋賀地区にある 19 の教会・伝道所は、「原発のない社会へ 2022 びわこ集会」にご参加の皆さまに連帯の挨拶をいたします。

世界では、2050 年までに温室効果ガスの排出をゼロとすることをめざす動きが広がっています。そうした中、本年 1 月 1 日 EU の行政を担う欧州委員会が、原発を地球温暖化対策に役立つエネルギー源であると位置づける方針を発表いたしました。欧州委員会は、再生可能エネルギーによる脱炭素社会への移行過程で、原発に役割があるとしたのです。ドイツ、オーストリア、デンマークなど 5 ヶ国は、「EU タクソミー」(経済活動ごとに環境面での持続可能性について仕分けするルール)に原発を加えることに反対していますが、フランス、ポーランドなど 10 ヶ国は、原発を加えるように求めています。また脱炭素のために、アメリカを中心に小型原発の開発をすすめていますし、中国やロシアなどは、電力不足に悩む国々に原発の輸出をおこなっています。

わたしたちの国では、政府が 2020 年 10 月、カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを宣言し、2021 年 5 月「地球温暖化対策の推進に関する法律の一部を改正する法律」が成立しました。東日本大震災から 10 年をむかえましたが、この間原発に関する議論を避けてきました。しかし、この宣言を受けて、原発の再稼働や新增設を求める声も強くなってきています。最近の関電のコマーシャルは、「ゼロカーボンな未来の暮らし」としてダムや原発を映し出し、CO₂ を排出しないクリーンエネルギーであることをアピールしています。

こうした中、わたしたちは、原子力に依存しない 2050 年脱炭素社会の実現に向けての取り組みをすすめて行かねばなりません。原発は、決してクリーンなエネルギーではなく、放射性廃棄物を生み出し続けるものであり、処分方法も確立されていません。2050 年の脱炭素社会の実現を目指すにあたり、その前提となることは、既存の原発を廃止し、原発の再稼働や新增設を行わないことです。原発が、地球環境やわたしたちの健康安全に負荷をかけている状況を取り除くことを前提として、脱炭素社会実現のために取り組みをすすめてゆくことが必要です。

滋賀県保険医協会

原発のない社会へ 2022 びわこ集会へのメッセージ

私たちは、滋賀県下の医師歯科医師が加盟する団体で、国民の健康と医療の向上をはかることを目的として掲げています。この目的に沿って、私たちは、これまで原発に関する講演会、映画上映会の開催や原発の再稼働や運転延長認可に反対、抗議する声明の発表、駅頭での宣伝などに取り組んできました。また、昨年 7 月の保険医協会総会では、「原発の再稼働を直ちに中止し、今後の再稼働計画もすべて白紙に戻すこと」「国民の生命を守るために原発ゼロ政策を実現すること」を求める宣言を採択しました。

事故から 10 年以上が経ちましたが、福島第一原発は廃炉のめども立たず、汚染水の排出が続き、周囲の環境が汚染され続けています。国は、住民の帰還を進めようとしていますが、山林など多くの地域が除染されないまま放置されています。多くの住民が避難を余儀なくされる中、避難者への支援が打ち切れ、経済的にも精神的にも大きな困難を抱えています。いったん原発事故が起これば、長期間にわたって住民の健康や生活に甚大な影響を与えることは、福島の実態からも明らかです。

国民の反対にもかかわらず、若狭湾では、原発が再稼働されています。もし若狭湾の原発で事故が起これば、琵琶湖が汚染され、滋賀県の住民の命や健康が脅かされることは間違いありません。事故の際には、避難の混乱の中で安定ヨウ素剤の配布も困難となります。住民が安全に避難できる保証がない中で原発の稼働は許されません。

また、原発が稼働しなくても、全国には大量の使用済み核燃料があり、事故の危険性があります。原発は未来の世代に大きな負の遺産を作り出すものです。

集会に参加されたみなさんの粘り強い取り組みに敬意を表します。これからも、原発事故の心配なく安心して暮らせる原発ゼロの日本を目指して、ともに取り組みを続けましょう。

2022 年 3 月 5 日

「原発のない社会へ 2022びわこ集会」 滋賀県知事メッセージ

「原発のない社会へ2022びわこ集会」関係者の皆さまの、平素のお取り組みに敬意を表します。

百四十万人の県民の命と暮らしはもとより、国民的資産に位置付けられている琵琶湖を預かる滋賀県の知事としては、原子力発電所につきましましては、実効性ある多重防護体制の構築が道半ばであること、使用済核燃料の処理など、いわゆる原子力の「静脈」部分が未整備であること、安全性に対する県民の不安感が払しょくされていないことから、再稼働を容認できる環境にないとの考えに変わりはありません。

「ひと」「社会・経済」「自然」すべての面で充足した本当の意味での『健康しが』を、みんなで力をあわせて『シガリズム』でつくってまいりたいと考えています。「未来へと幸せが続く滋賀」の実現に向けて、一緒に頑張りましょう。

令和四年三月五日

滋賀県知事

菅大造

トーク 13時～ 膳所公園野外ステージ



神田香織さん

かんだ かおり 福島県いわき市出身。講演協会理事。劇団を経て1980年二代目神田山陽門下生となる。

二つ目以降ジャズ講演や一人芝居の要素を取り入れた神田香織独自の講演を次々発表、講演の新境地を切り開いている。

2011年の震災後、NPO法人「ふくしま支援・人と文化ネットワーク」を立ち上げ代表理事としてふもと福島を支援し続けている。

代表作は「はだしのゲン」「チェルノブイリの祈り」「フラガール物語」

「福島への祈り」「沖縄戦ーある母の記録」など。

1986年「講演はだしのゲン」で日本雑学大賞受賞

2010年松井やよひジャーナリスト特別賞受賞

2012年多田謡子反権力人権賞受賞

著書「花も嵐も講師が語ります。」七つ森書館「乱世を生き抜く語り口を持つ」インパクト出版会「311 後を生き抜く力声を持つ」インパクト出版会

井戸謙一さん基調報告(いどけんいち 弁護士・元金沢地裁裁判長)

びわこ集会 (膳所公園野外ステージ) 14時15分頃～



2006年3月24日、日本で初めて稼働中の原発である石川県志賀原発2号機の運転差し止めを認める判決を下した元金沢地裁裁判長。その判決の中で「可能性として、外部電源の喪失。非常用電源の喪失。さまざまな故障が同時に。多重防護が有効に機能するとは考えられない」と述べ、事故に想定外はないとし、事故が起こった場合、その被害は取り返しがつかないという住民の訴えに重きを置いた。

現在は弁護士として、福井原発差し止め訴訟(滋賀)の弁護団長として活躍中。福島の子どもたちを救うため子ども脱被ばく裁判などにも関わっている。

滋賀県彦根市在住。

原発事故時の県内自治体の避難計画に関する調査結果の展示と地震解説ビデオ上映

201号室で資料展示とビデオ上映

避難計画を策定している自治体

滋賀県で避難計画を策定しているのは、県、原発から概ね30km圏内のUPZを市域に含む長浜市、高島市、独自にUPZを設定している大津市です。内容は、長浜市、高島市の避難はまず県内避難、それが難しい場合は県外（大阪府）へ、大津市は市南部へ避難するというものです。

若狭の原発群と滋賀県の位置関係

国は原発から概ね30km圏内について避難計画の策定を求めています。50km圏内には右図に示すとおり県域の半分程度が、100km圏内では全県域が含まれます。



避難の前提となる放射性物質の放出量

放射性物質放出量は事故の規模、影響は気象条件などによって大きく異なります。福島第一原発事故でも250km圏内避難の恐れがありました。そこまですらなかったのは偶然です。

滋賀県の想定は、福島第一原発事故の実績をベースにしていますが、それを上回る危機に直面していたし、若狭の原発に蓄積されている放射性物質の量を考えると県の想定は過小と言わざるを得ません。また、新規規制基準ではさらに過小評価となる審査基準を設定しています。

セシウム137の放出量の比較

単位:TBq Tは10¹²

ケース	放出量	比較	出典	備考
チェルノブイリ事故	85,000	5.7	環境省資料	放出総量
福島第一原発事故	15,000	1.0	同上	同上
滋賀県の想定	2,400	0.160	地域防災計画	福島ピークの6時間
規制委員会の審査基準	100	0.007	審査ガイド	
大飯原発(関電)	5.2	0.0003	地元説明資料	

自治体への調査結果の展示

県と19市町に対して行った下記調査項目に対する回答状況とその評価について展示します。

- ① 避難計画の実効性の検証などについて
- ② 原発事故が発生した時に住民避難・広域避難の実現可能性
- ③ 複合災害、とくに大規模地震が同時に発生したときの避難
- ④ 屋内退避の問題について
- ⑤ 安定ヨウ素剤の配備、服用の現状、課題について
- ⑥ 調査結果のまとめ

地震に関するビデオの上映

以上の展示とともに、大津の原発裁判で重要な争点の一つである地震について解説したビデオを上映します。

ビデオ「地震の基礎知識」 上映時間
10:10～ 10:50～ 11:30～

福井原発訴訟(滋賀)を支える会

<http://www.nonukesshiga.jp/>

福田章典さんに聞く

何に効くのか？

安定ヨウ素剤の使用法

どこで手に入れるの？

飲み方は？

会場 生涯学習センター3階学習室
(膳所公園の向かい側)

10:30 開場

11:00 開始

12:00 終了

担当 安定ヨウ素剤を配ってよ！しが連絡会
資料代として300円いただきます

原発事故が起こると**放射性ヨウ素**に被ばくして**甲状腺がん**になる怖れがあります。チェルノブイリ原発事故で18歳以下の子ども4千人以上が甲状腺がんになりました。福島でも事故後、小児甲状腺がんが293人に達し、222人が手術を受けました。そのうち6人が、東京電力に損害賠償請求訴訟を起こしました。被ばくによる甲状腺がんを防ぐには**安定ヨウ素剤**を飲む必要があります。福島では備蓄されていた安定ヨウ素剤がほとんど配布されませんでした。安定ヨウ素剤をどうやって手に入れ、どのように保存すればよいのでしょうか。子どもにどうやって飲ませればよいのでしょうか。

すべての疑問に答えます。

福田章典さんのプロフィール

ふくた診療所 所長

JR湖西線蓬萊駅前

原発のない社会へ びわこ集会 呼びかけ人

福井原発訴訟（滋賀）を支える会会長

趣味 トライアスロン（世界各地の競技会に参加）



※びわこ集会2021で行った説明会と同内容です。
昨年、参加できなかった方はぜひご参加下さい。

畑 明郎さん講演会

イタイイタイ病とフクシマ講演会

10時30分～12時(10時開場)

生涯学習センター4階視聴覚室

日本環境学会元会長・元大阪市立大学教授
びわこ集会呼びかけ人 畑 明郎さん



※次ページに講演資料があります。

青田恵子さん布絵展

10時30分～12時

生涯学習センター3階303学習室



青田恵子さん

福島県南相馬市出身。福島第一原発の事故後、福島県から大津市に避難。3人の娘の古着を切り貼りした布絵に自作の詩を添え、遠く離れたふるさとへの思いを表した作品は共感を呼んでいる。

イタイイタイ病とフクシマ

- ・イタイイタイ病発生から解決まで100年かかったが、フクシマも100年かかるだろう。
- ・イタイイタイ病は被害規模、土壌還元、発生源対策に約1千億円かかったが、フクシマは数兆円以上かかるだろう。
- ・①原因究明、②汚染調査、③汚染対策、④発生源対策、⑤人権被害、⑥被害補償の六つの視点からイタイイタイ病とフクシマを比較検討し、イタイイタイ病対策の経験からフクシマへ政策提言をする。
- ・イタイイタイ病対策の先進的経験は、福島原発事故に全く活かされていないことが分かった。

1

イタイイタイ病と神通川

- ・岐阜県飛騨市の神通鉱山から排出されたカドミウムが神通川に流れ、川水を農業用水に使用していた富山県の農地土壌が汚染された。
- ・汚染農地の産米を長年食べた中高年の女性多数が、骨粗鬆症を伴う骨軟化症を発生した。
- ・患者が「いたい、いたい」と骨の痛みを訴えて死ぬので、地元の萩野医師がイタイイタイ病と名付けた
- ・原因は、摂取したカドミウムが腎臓に蓄積され、尿中に骨の成分であるカルシウムやリンが流出し欠乏するカドミウム腎症のため骨がもろくなる。

2

三井金属鉱業の神岡鉱山とは

- ・日本最大の非鉄金属鉱山。
- ・16世紀末に銀・鉛・銅山として開業。
- ・明治以降に三井資本が進出し、鉛製錬を開始。
- ・三井三池炭鉱と並ぶ三井財閥のドル箱となる。
- ・1905年頃から亜鉛鉱石の採取を開始。
- ・1943年に亜鉛製錬工場を建設し、亜鉛やカドミウムの生産を開始、三井金属は連船トロッポメーカー。
- ・2001年に閉山し、粗鉱産出量は約5千トン以上。
- ・廃バッテリーを原料とする鉛リサイクル工場と、海外鉱と鉄鋼集塵灰による亜鉛製錬は継続。

3

神岡鉱山排水対策の基本

1. 清水と濁水（汚染水）を徹底的に分離する。
2. 清水は河川にそのまま放流し、汚染水は徹底的に排水処理し、坑内清水をレベリングにする。
3. 排水処理は、シツクナや堆積場ボンドでのアルカリ凝集沈殿法や急速濾過法による。
4. 汚染地下水は積極的に排水処理する。
5. 禿げ山は植栽して沢水の水質を改善する。
6. 神通川の水質を自然界レベリングに戻す。

4

イタイイタイ病発生源対策50年史

- ・50年で神岡鉱山のカドミウム排出量は約16分の1となり、神通川水質も約20分の1となり、自然浄化レベルになった。
- ・再稼働懸念や騒音や漏水などが出た場合、地下水の抜本的対策としてバリアアプリアや漏水井などが必要とされた。
- ・50年間の経歴防止投資額は、300億円を超え、その3分の2は排水対策費であった。
- ・排水対策は、坑内以外に給水、排水、ホウ酸、フッ素、マシナリなどが必要とされた。
- ・尾処理天掘りや円山陥没の整形・掘削が今後必要である。
- ・地盤下の工場施設などの対策が不十分である。
- ・本業の集中策前、土壌還元もまだ十分である。
- ・「イタイイタイ病-発生源対策22年のあゆみ」1994年、東出社から出版された。2021年9月に出版された。

5

1 原因究明

- ・1955年の萩野医師によるイタイイタイ病発見から1968年の厚生省見解まで、イタイイタイ病カドミウム原因説が確定するのに13年間も要したが、原因究明はされた。
- ・福島原発事故の原因究明は、事故後10年経っても十分に分かっていない。東日本大震災の地震なのかが、連綿不断的な面者の都合なのかが、政府・国会・民間の事故調査委員会で見解が異なる。
- ・原発事故の原因究明がされなければ、廃炉の展望もない上に、福島以外の原発の安全性も確保できないので、原因究明をやり直すべきである。

6

2 汚染調査

- イタイイタイ病の原因となったカドミウム汚染は、神通川水系の水質と底質を詳細に調査し、三井金属神岡鉱山のカドミウム汚染負荷を明らかにした。
- 神岡鉱山の排水による富山平野の農地汚染を詳細調査し、農用地土壌汚染対策地域を指定した。
- 福島原発事故では、市街地、農地、山林などの放射能汚染調査は極めて不十分である。航空機によるモニタリング調査では不十分であり、陸地の10mメッシュ単位の汚染調査を要するべきである。
- 福島原発からの大気や海洋への排出量を調査し直す必要がある。

7

3 汚染対策

- イタイイタイ病では、カドミウムで汚染された農地、1500haを土壌汚染対策地域に指定し、土壌還元事業が33年間と407億円かけて実施され、環境を再生するとともに産水の再汚染を防止した。
- 福島原発事故では、公共施設や住宅の一部は、表土の掘削除去や建物汚染などにより除染されたが、市街地の大半、農地、山林などは、ほとんど手つかずである。除染で生じた汚染土壌の堆場が確保されておらず、除染事業を遅らせている。
- 広大な放射能汚染農地や山林の還元は困難であり、放射能の自然減衰を待つしかない。

8

4 発生源対策

- イタイイタイ病では、詳述したように、裁判時評後の公運防止協定に基づく立入調査による発生源対策が50年間継続され、神岡鉱山のカドミウム排出量は約16分の1に削減され、神通川水質も自然界レベルとなった。
- 福島原発事故では、メルトダウンした核燃料デブリを地下水で冷却しているために発生する汚染地下水の処理が確立しておらず、いたずらに汚染水を増やし、ダンプを確立し続けており、汚染水の海洋放出を計画している。
- デブリ取り出しも困難で、廃炉の展望も見えない。

9

5 人体被害

- イタイイタイ病では、認定審査に問題はあったが、認定患者や要観察者の救済は行われた。
- イタイイタイ病の前駆症状であるカドミウム腎症は救済されていなかったが、発生源企業から一時金60万円が支払われた。
- 福島原発事故では、年間100ミリシーベルト以下の被ばくでは発がんしないとして、福島県民健康管理調査の甲状態がん症例多発は放射能の影響ではないとされ、人体被害を全く認めないが、人体被害を認めて救済すべきである。

10

6 被害補償

- イタイイタイ病では、詳述したように、人体被害補償、農業被害補償、土壌復元費用などの被害補償が、汚染者負担原則に基づき実施された。
- 福島原発事故では、年間20ミリシーベルト以上の避難地速の避難者や移住者には一定の補償金が支払われたが、自主避難者への補償はほとんどとどまされていない。
- そのためにもさまざまな損害賠償を求めると裁判が多発している。除染費用も大半を国が立て替えており汚染原因者である東電の支払いが滞っている。

11

福島第1原発の地質・地下水問題

- 東電の地質や地下水調査は不十分であり、汚染水対策も不十分で、その効果は限定的である。
- 海抜35mの台地を削り、海抜10mの用地造成を行なったため15m高さの連液状態を受けた。削った理由は冷却水の揚水費用を節約するためだった。
- 敷地の地質は未固結砂岩層で地下水の透水性が高く、大量の地下水が湧出する。
- 地下水パイパス、サブドレン揚水、凍土遮水壁などの効果は、限定的であり、海洋放出を決めた。
- 敷地周囲に地中連綿壁の広域遮水壁を設けて誘入する地下水をカットし、集水井戸の設置が必要。

12

2022年びわこ集会基調報告

井戸謙一

1 福島原発事故から11年が経過しました。事故後廃炉が決まった原発が24基もあるのに対し、事故後稼働した原発は10基に過ぎません。いまだに政府は原発の新設を言い出せません。私たち市民の運動や世論は、原子カムラの原発復活戦略を確実に押しとどめてきました。

2 しかし、ここに来て、地球温暖化対策、ゼロカーボンを経営にして原発ルネサンスを再興しようという動きが顕著になってきました。EUは、原発をタクソミー（環境に配慮した経済活動）に含めようとしており、フランスは、6基の新設計画を打ち出しました。国内でも、原油価格や天然ガス価格の高騰にも便乗して原発推進派の鼻息が荒くなっています。

3 現在も全国の裁判所で36もの裁判が闘われています。3月10日には名古屋地裁で高浜3、4号機の使用停止命令義務付け訴訟の判決が、5月31日には札幌地裁で北海道電力泊原発の運転差し止め請求訴訟の判決が言い渡されます。一昨年12月には大阪地裁で、昨年3月には水戸地裁で原告住民が勝訴しました。裁判例の流れは徐々に、かつ確実に変わりつつあります。定年前の裁判官でなくても、エリート裁判官であっても、特別の覚悟を持たなくても、原発の運転を差し止めることができる、そういう時代になってきました。裁判官が原発の運転を差し止める心理的なハードルが低くなってきているのです。これは、全国の市民の皆さんの長年にわたる粘り強い運動の成果です。この流れを、今後さらに確実なものにしていかななくてはなりません。

4 数ある訴訟の中でも、大阪地裁で闘われている老朽美浜3号機の運転差し止め仮処分事件は極めて重要です。現在、40年を超える運転の認可を得た老朽原発は4基、すなわち、関西電力の高浜1、2号機、美浜3号機、日本原電の東海第二原発です。このうち、現に運転が始まったのは美浜3号機だけです。そこで、昨年6月21日、福井及び滋賀の皆さんが、美浜3号機の運転を緊急に差し止める申立てをしたのです。

政府は、エネルギー基本戦略で2030年の発電量のうち原子力発電の割合を20～22%としています。新設が見通せない中、これを実現するためには、運転開始後40年を超えた老朽原発を動かし続けるしかありません。しかし、電力会社の立場では、多額の投資をして40年を超える運転延長認可を得ても、司法によって運転を差し止められるようでは、リスクが大きすぎます。現在、運転開始後30年を経過している原発が13基あります。電力会社は、これらについて40年を超える運転延長の認可申請をするのか、断念して廃炉にするのかを順次決定しなければなりません。決めるに当たり、老朽美浜3号機運転差し止め仮処分事件の帰趨は重要な要素です。運転延長認可を得ても、司法判断で運転が差し止められるリスクが高くなれば、電力会社は、運転期間が40年に近づいた原発について、延長認可申請を断念し、次々と廃炉を決断する可能性があります。そうなれば、日本の原発の終焉が目に見えてきます。

5 原発のない社会を作るためには、原発安全神話を打ち破る必要がありますが、それだけではなく、被ばく安全神話を打ち破らなければなりません。

福島原発事故前、原子カムラは、市民に対し、「日本の原発は事故を起こさない」との原発安全神話を流布し、市民を騙しました。福島原発事故後、原発安全神話が使えなくなった原子カムラは、これに代わり、「原発事故が起こっても住民の健康被害は生じない」という「被ばく安全神話」を流布し、日本の社会に

浸透させようとしています。そのために、1ミリシーベルトだった一般公衆の被ばく限度を20ミリシーベルトに20倍も引き上げ、市民の生活場所に持ち出す汚染物の基準を1キログラム当たり100ベクレルから8000ベクレルに80倍も引き上げ、有害なトリチウムだけでなく多くの放射性物質が含まれる汚染水を海洋放出しようとしています。福島原発事故のような大事故が起こっても住民の健康被害が生じなかったのだから、被ばくを過度に恐れる必要はなく、原発を過度に嫌う必要はないというわけです。

そのため、2014年5月、漫画「美味しんぼ」が福島における被ばくによる鼻血問題を取り上げたとき、環境大臣、福島県、双葉町、福島大学、大阪府知事、大阪市長等が一斉にバッシングをしました。福島原発事故後、多くの子どもたちが異常な鼻血を出していたのに、福島の人たちはその事実すら話すことができなくなり、鼻血の話は圧殺されました。

そして、最近、元首相5名、すなわち、小泉純一郎氏、菅直人氏、鳩山由紀夫氏、細川護熙氏、村山富市氏が、欧州委員会に対し、原発をタクソノミーに含めることに反対する書簡を発送しましたが、その中に、「多くの子どもたちが甲状腺がんで苦しみ」との一節があったことに対し、環境大臣、総理大臣、自民党政調会長、福島県知事、自民党福島県連、国民民主党等が一斉に非難の声を上げました。「美味しんぼ」騒動に味を占め、小児甲状腺がんに関する発言を圧殺しようとしているようです。

しかし、さる1月27日、福島原発事故当時福島県内で居住していた当時6歳から16歳の若者6名が東京電力を被告として損害賠償を求める訴訟を東京地裁に起こしました。福島原発事故前、年間100万人に1～2人といわれていた小児甲状腺がんが、福島原発事故後、福島県だけで少なくとも293人に見ついています。普通に考えれば、その原因は被ばくでしょう。しかし、今の社会的雰囲気の中で、若者たちは、孤立し、自分が甲状腺がん患者であることすら周りに隠して生きてきました。そして、事故から11年が経過し、ようやく自ら声を上げる決断をしたのです。小児甲状腺がんは軽い病気ではありません。6人全員が片葉摘出術を受けましたが、うち4人は再発して甲状腺全摘となりました。その後も再発を繰り返し、すでに4度の手術を受けた若者がいます。肺への遠隔転移を指摘されている若者もいます。誰もが進学や就職に支障をきたし、将来に不安を抱いて生きています。彼らは、自分のためだけではなく、300名近い同じ立場の若者たちに勇気を持ってほしい、そして、原爆被爆者のように、生涯にわたる医療、生活を保障する制度を作ってほしいという思いで提訴を決断しました。

政府は、福島原発事故は、チェルノブイリ原発事故よりも住民の被ばく量が少なかったから健康被害はないと決めつけています。確かに福島原発事故による放射性物質の放出量は、チェルノブイリ原発事故の7分の1程度とされています。ところで、チェルノブイリ原発事故による住民の死亡者の推定数は、数万から数十万とされており、最も少なく推定しているIAEAでも4000人です。仮に、福島原発事故によって放出された放射性物質がチェルノブイリ事故の7分の1だったとしても、住民に健康被害が生じないはずがないのです。この国が民主主義によってたつ国家なのであれば、政府がすべきことは、被災住民の詳細な健康調査を続け、得られたデータを公表し、市民を交えてオープンに議論し、被ばくによる被害に対しては速やかに補償をすることのはずです。

福島原発事故のような大事故が起こっても住民の健康被害が生じないのであれば、原発を過度に恐れる必要はなく、原発を受け入れるべきだという論理は説得力を持ちます。したがって、私たち自身が、被ばくによる健康被害を曇りない目で見つめ、これを無視、圧殺しようとする政府、原子カムラと闘い、被ばく安全神話を打ち破らなければ、原発のない社会の実現は見通すことはできません。

6 多くの課題を抱えた状態で原発事故後12年目に入ります。今年も、一人ひとりがそれぞれの場で、できる努力を続けていきましょう。

忘れない フクシマ まもりたい いのちとびわ湖 原発のない社会へ 2022びわこ集会 アピール (案)

東日本大震災・福島第1原発事故から11年経ちます。私たちは亡くなられた方々に心からの哀悼の念を表するとともに、今なお続く被災者の苦難に心を寄せています。このびわこ集会も10回を数え、第1回と同じ神田香織さんをゲストに迎えて力強いメッセージをいただきました。

福島では原子力緊急事態宣言は未だ解除されず、帰還困難区域の解消の見通し也没有。昨年4月、国は漁業関係者等との約束を反故にして、トリチウムなどを含む汚染水の海洋放出を決定しました。国は海洋放出以外の方策はまともに検討せず、地元さらなる被害を押しつけています。こうした地球環境を壊す暴挙には、諸外国からも抗議が寄せられています。

昨年3月、水戸地裁は老朽原発である東海2号機の運転を差し止める画期的な判決を下しました。その理由は、国は5層の深層防護という国際基準に反して、まともな住民避難計画もないまま、再稼働させようとしていることです。これを受けて昨年6月には、大阪地裁に地震と避難計画に争点を絞った美浜3号機の運転差し止めの仮処分が申し立てられました。

昨年6月、関西電力は住民の強い抗議を押し切って、全国で初めて法定寿命40年を超える老朽原発を再稼働させました。その美浜3号機は、テロ対策の不備のため10月に停止されましたが、関西電力は1年後に再稼働させ、さらに圧力容器が脆くなって危険が指摘されている老朽原発の高浜原発1号機、2号機も動かそうとしています。それに対して地元福井と関西、東海から「老朽原発うごかすな、ただちに廃炉にせよ」の運動が大きく広がっています。

原発事故後、福島で300人近い子どもたちが小児甲状腺がんになりました。今年1月27日、そのうち6人が東京電力に損害賠償を求めて「311子ども甲状腺がん裁判」を提訴しました。原発事故の健康被害を訴える裁判は日本では初めてです。同日に小泉純一郎氏ら5人の元首相が連名でEU欧州委員会に書簡を送り、気候変動対策に原発を含めることに反対しました。書簡の中の「多くの子どもたちが甲状腺がんに苦しみ」という箇所に対して、国は放射線による健康被害は誤りで、いわれない差別や偏見を助長すると非難しました。

福島の多くの子どもたちが甲状腺がんの手術、さらに再手術や転移で苦しんでいることはまぎれもない事実です。国は、チェルノブイリ事故では4000人以上も小児甲状腺がんになった事実を目を背け、福島の多くの甲状腺がんの子どもたちを救済しようとせず、原発事故と関係ないという文字通りの安全神話を押しつけています。甲状腺がん裁判は、放射線被ばく安全神話を打ち破る、正面からのたたかいです。私たちは力いっぱい支援していきます。

今日、ここに集う私たちは、福島原発事故を忘れることなく、被災した人々と連帯を強め、原発のない社会をつくりあげる決意を新たにしています。ドイツや台湾などでは原発の廃炉を決定しました。圧倒的多数の原発ゼロを求める国民世論によって原発推進勢力を包囲、孤立させ、自治体とも手を取り合っ、老朽原発とすべての原発再稼働を許さず、放射能からびわ湖を守り、私たちと子々孫々の生活を守りぬきましょう。

2022年3月5日 原発のない社会へ 2022びわこ集会 参加者一同

コール案

美浜・高浜の老朽原発はただちに廃炉にせよ
関電原発マネー不正環流を徹底究明せよ
関電に原発を動かす資格はないぞ
高浜・大飯原発をただちにとめろ

すべての原発の再稼働をするな 新增設やめろ
福島原発汚染水を海洋放出するな
原発ゼロ基本法を成立させよう
原発被災者のふるさとを返せ
すべての原発を廃炉にしよう

放射能から子どもをまもろう
放射能から命をまもろう
放射能からびわ湖をまもろう

核と人間は共存できない
脱炭素を原発推進に利用するな
原発を輸出するな
原発の電気はいらない
原発のない社会をつくろう

☆☆ リズムバージョン ☆☆

キケンな原発今すぐとめろ
全ての原発 廃炉・廃炉
ろうきゅう原発 とくべつキケン
美浜・高浜 ただちに廃炉
再稼働反対 再稼働反対

原発マネー 徹底究明 究明
海洋放出 やめろ やめろ
東電 政府は 責任取れ
関西電力 再稼働やめろ
高浜 大飯 今すぐとめろ
原発ゼロ法 今すぐつくれ
避難者まもれ 子どもをまもれ
いのちをまもれ びわ湖をまもれ
未来をまもれ

電気は足りてる
原子力発電ぜったい反対
原！ 発！ 反！ 対！
脱炭素を利用するな
原発ゼロの社会をつくろう



老 朽 原 発

動 力 ず な